

令和6年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判断基準	判定基準	備考
(1) 授業改善と 専門性の向 上	① <授業改善> 「新たな教師の学びの姿」 を踏まえ、各自が学校研究を 推進し、深い学びへの授業改 善を行う。	研究推 進課 全学部	研究授業実施に向けた一連の流れ をとおり、教科の見方・考え方へ の理解を深め授業改善を行った。深い 学びへと繋げる発問の設定や児童 生徒の応答予想等に課題が残った。	【努力指標】 児童生徒の応答を予想 し、深い学びに繋げる発 問や授業展開を工夫し、 改善している。	アイデアシートや自己の研修 等を活かし、教科及び自立活動 の研究グループや担当する授業 等において、授業の工夫改善に 取り組んだ職員の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
	② <専門性の向上> 社会に開かれた教育課程を 目指し、児童生徒の特性や能 力に応じ、確かな学びに繋がる 授業展開や各教科の指導の 充実を図る。	教務課 全学部	授業参観等では、授業の目標、年 間指導計画等を教室に掲示し、意見 をいただいている。学習指導要領に 基づく指導内容表は検討中であり、 類型別の教育課程における履修内容 を明示していない。	【満足度指標】 3年間を見通した指導 内容表の提示を行い、各 教科の指導内容の充実と PDCAに基づいた指導の改 善を目指している。	各部で作成・検討した3年間 を見通した指導内容表が、年間 指導計画や個別の指導計画に活 かされ、各教科の指導が充実し たと感じる保護者の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 保護者ア ンケート
	③ <ICTの活用> 児童生徒の障害特性を踏ま えたICTの活用を工夫し、 個別最適な学びや協働的な学 びに繋がる授業を実践する。	情報支 援課 全学部	授業の目標達成に向け、タブレッ ト端末の効果的な活用に取り組んで いる。様々なアプリを効果的に使用 したり、デジタル教材等も工夫改善 したりする等し実践を重ねている。	【努力指標】 タブレット端末を有効 に活用し、個別最適な学 びや協働的な学びに取組 んでいる。	タブレット端末を効果的に活 用し、児童生徒の家庭学習やオン ライン学習等につながる個別 最適な学びを進める取組みがで きた職員の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
(2) キャリア教 育の推進	① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プログ ラム（改訂版）を活用し、家 庭と連携し個々のキャリア発 達を促す取組みを実践する。	進路支 援課 キャリア 教育委員 各担任	児童生徒一人一人のキャリア発達 を促すために、学校での取組内容や 教育実践を教員が適切に説明し、家 庭と連携し共に取組みを継続する必 要がある。	【努力指標】 保護者が学校でのキャ リア教育の取組内容や実 践を理解し、家庭等でも 意識して取り組んでいる。	キャリア教育の内容【社会で 生きる力】（挨拶やきまりを守 る等）を理解し、家庭でも取組 んでいる保護者の割合	A：75%以上 B：65%以上 C：55%以上 D：55%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 保護者ア ンケート
	② <進路支援の充実> センター的機能を発揮し、 地域の保護者も交えた進路研 修会等を継続し、キャリア教 育や進路支援、進路相談の充 実を図る。	進路支 援課 相談支 援課	地域の特別支援学級在籍の保護者 から進路に関する研修会や相談会に 参加の希望があった。卒業後の生活 や進路について考えるよい機会とな り、関係機関とも連携しながら相談 依頼にも対応していく必要がある。	【満足度指標】 保護者がキャリア教育 や進路に関する研修会、 進路相談等に満足してい る。	キャリア教育や進路に関する 研修会等の内容や進路相談に満 足している保護者の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 保護者ア ンケート
(3) 安心・安全 な学校づく り	① <健康・安全・防災に関する 教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する 指導を授業や行事等において 実践する。	保健課 各担任	健康・安全・防災に関する指導は より重要性を増し、児童生徒自身が 健康や安全に留意し、自ら考えて行 動できるように指導していく必要が ある。また、家庭とも連携して行っ ていく必要がある。	【成果指標】 学校保健計画をもとに 指導し、児童生徒が健康 や保健学習に関する理解 を深めている。	児童生徒の実態や発達段階に 応じて指導し、健康や保健に関 する学習において理解を深める ことができた児童生徒の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
		指導課 各担任	健康・安全・防災に関する指導は より重要性を増し、児童生徒自身が 健康や安全に留意し、自ら考えて行 動できるように指導していく必要が ある。また、家庭とも連携して行っ ていく必要がある。	【成果指標】 学校安全計画をもとに 指導し、児童生徒が防災 学習や避難訓練等で防災 に関する理解を深めている。	防災学習や避難訓練等におい て、防災に関する発言が見られ たり、適切な行動を自らとったり することができた児童生徒の 割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	5月・1月 職員アン ケート (避難訓 練後)
(4) 業務の効率 化の工夫	① <業務の効率化と環境改善> 分掌業務のデジタル化と共 有化を推進し、各部・各課が マニュアルやスケジュール等 をもとに業務の効率化や平準 化を目指す。	教頭 各課 全学部	各部、各課の業務のデジタル化と 共有化を図り、会議等ではペーパー レスが進んだ。しかし、家庭、関係 機関への連絡事項は現在も紙媒体が 主である。印刷、配布等の業務を減 らせるように体制を整えていく。	【成果指標】 家庭及び関係機関への 連絡・調査等の文書をペ ーパーレス化し、業務の 効率化を進めている。	各部・各課（計12部署）にお いて、連絡・調査等の配布文書 をペーパーレス化し、計画的に デジタル配信することで、効率 よく業務を行えた部・課の割合	A：10/12以上 B：8/12以上 C：6/12以上 D：4/12以下	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート

